

★六一年間 平和憲法が守られてきたわけ

―戦争の反省と正しい歴史認識の上に立つ現憲法―

◆十月三十一日、一人の航空幕僚長が更迭（こうてつ）（解任）されました。その肩書でとんでもない歴史認識を論文として公に発表したからです。

★日本の侵略戦争はぬれぎぬ???

◆一九九五年八月一日、村山首相は閣議決定に基づき、日本が戦中に行った「侵略」や「植民地支配」は誤っていたと公式に謝罪する談話を発表しました。

◆これは日本国政府の公式の歴史認識として定着しており、その後二〇〇五年の小泉首相談話、二〇〇六年の安倍首相談話も同じ内容です。

◆ところが、政府の中核にいる自衛隊の最高幹部が、それは違う、あの戦争は誤っていないかった、侵略だなどというのは濡れ衣だと公に発表したのです。

★あの戦争が誤っていなかったとすれば・・・

◆もともと、現在の憲法はその前文「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように・・・」とあるように、かつての誤った戦争の反省と歴史認識の上に生まれたものです。

◆それが、あの戦争は誤っていなかった、反省も必要ないとすれば、今の憲法を苦勞して作る必用も守ってくる必用もなかったことになりませんか？

★「そんなの関係ねえ」ですか？

◆この論文を書いた人は、自衛隊のイラク派兵は憲法違反であるとした名古屋高裁の判断を「そんなの関係ねえ」と芸能ギャグで茶化した人です。

◆このように、憲法の平和理念も日本国政府の公式の歴史認識も踏みにじって平然としているような人が、自衛隊の最高幹部にいたとは・・・ぞっとします。

◆一九四七年新憲法が施行されてから六一年間、他国と戦争をせず一人の戦死者も出さずにきたのは、この平和憲法があり、正しい歴史認識があったからです。それでも、「そんなの関係ねえ」ですか？

二〇〇八年十一月九日（日） 第五〇一回憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

●ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちほ。歩き続けて四二年。ただいま、「浜松市憲法を守る会」の第五〇一回目の平行行進を行っています。

●先月末、航空幕僚長が更迭されました。

現職の航空幕僚長の肩書きで、日本の侵略戦争はぬれぎぬだと言う論文を、公に発表したからです。

●まず、一九九五年八月一五日、村山内閣は、あの大東亜戦争は侵略戦争で、アジアのみなさんに多大の迷惑をかけたと謝罪を表明しました。

●以後、この歴史認識は日本政府の公式見解となっています。小泉首相も安倍首相も同じ見解を述べています。

●ところが、政府の中枢にいる現職の航空幕僚長がこれを真っ向から否定する見解を表明したのです。
このような考えの人が、自衛タイのトップにいるという事はぞつとします。

●私たちの考えを、次の歌から察してください。
(浜松市憲法を守る会の歌を流す)

●先月末、航空幕僚長が更迭されました。
現職の航空幕僚長の肩書きで、日本の侵略戦争はぬれぎぬだと言う論文を、公に発表したからです。

●もし、あの戦争が侵略戦争でなく、正しい戦争であったのなら、憲法前文に書いてある、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように」平和憲法を作ったことは無駄だった、この六〇数年間戦争をしなかった日本の歩みは間違っていた・・という事になりませんか？ みなさんいかが思いますか？

●私たちはこう考えます。
先ず、先の大戦は間違った戦争だった。そしてその反省の上に立って平和憲法が生まれたのです。

そのおかげで、戦後60数年間、他国と戦争することなく、一人の戦死者も出さずに今日まできたのです。

●あの戦争が正しい戦争であったという考えは、日本の国をまた軍国主義に引き戻す、大変危険な考えです。

●市民の皆さん私たちの考えを、次の歌から察してください。
(浜松市憲法を守る会の歌を流す)